

第9回

子どもを育てるのは誰!?
～ 子どもの“育ち”を支える存在～講師
谷 昌之

「子育て」と聞いて、あなたはどのような光景を思い浮かべますか？子どもと“母親”の姿を思い浮かべた人が多いのではないのでしょうか？しかし、子育ては女性（母親）だけがするものでしょうか？男性（父親）の育児参加意識は高まっているものの、いまでも子育ての責任が母親に押し付けられている状況が見受けられます。

今回は子どもの育ちだけでなく、子育てをしている親を支えるためにどのようなことが必要か、考えていきましょう。

◆◆◆ きょうのキーワード ◆◆◆

根強く残る「子育ての社会通念」

「男は仕事、女は家事・育児」という性別役割分業意識が見直され、家庭や社会のあらゆる活動に男女が対等に参画することを目標として掲げているにもかかわらず、子育ての責任を母親だけに押し付ける状況がなかなか改善されていません。その背景となるのが「母性神話（女性は母性愛を本能として持っているので、母親が育児をするべきという考え方）」や「3歳児神話（3歳までは母親の手で育てないと、後々取り返しのつかないダメージを子どもに与えるという考え方）」で、その影響が今でも社会通念として根強く残っています。このような考え方は、現在は合理的根拠がないとして否定されています。

育児不安

子育てをつらく感じてイライラしたり、子育ての悩みを誰にも相談したりすることができず、親が孤立してしまう場合があります。こうした子育て環境の悪化は、親子関係のゆがみをもたらすこともあります。

認定こども園

就学前の子どもに幼児教育と保育の両方を提供し、地域における子育て支援事業を行う施設として2006年10月から制度化されました。認定こども園には、地域の実情や保護者のニーズに応じて選択が可能となるよう、幼保連携型、幼稚園型、保育所型、地方裁量型の4タイプが設定されています。

memo

子ども・子育て支援新制度

「量」と「質」の両面から子育てを社会全体で支えるための取り組みとして、認定こども園の普及や、地域の子育て支援の充実などについて、内閣府を中心として推進しています。

具体的な取り組み例として、子育て支援センターや行政の窓口での情報提供や支援の紹介などの利用者支援、放課後児童クラブの整備、急用や短期就労に対応するための一時預かり、病気や病後の保育を担う病児保育、子育て中の保護者などの地域住民が相互に助け合うファミリー・サポート制度などがあります。

1 子育ては母親だけの仕事？

番組では「ワンオペ育児」「孤育て」に苦しむ母親の事例を VTR で紹介しました。この事例についてあなたはどのように感じたか、まとめましょう。

2 認定こども園ってなに？

家庭で行う個別の保育のことを「家庭保育」といいます。それに対して、大勢の子どもを対象にする保育のことを「集団保育」といいます。代表的な集団保育の場として、保育所、幼稚園、認定こども園などがあります。「家庭保育」と「集団保育」それぞれのよいところを、できるだけたくさん書き出してみましょう。

3 子育て支援を活用しよう!

番組では、子育て支援サービスのひとつとして「パパママ銭湯の日」の取り組みを紹介しました。子育て中の親にとって、育児のストレスを少しでも発散することにつながる取り組みといえます。ほかにどのような支援があればよいか考えてみましょう。

《参考》子どもをもって負担に感じること

厚生労働省が実施した7歳の子どもをもつ家庭への調査によると、75.2%もの人が「子どもを育てていて負担に思うことや悩みがある」と答えました。負担や悩みの具体的な内容として多かったものは次の通りです（複数回答可）。

- (1) 子育ての出費がかさむ … 42.0%
- (2) 自分の自由な時間が持てない … 31.7%
- (3) 子育てによる身体の疲れが大きい … 26.6%
- (4) 気持ちに余裕をもって子どもに接することができない … 25.0%
- (5) 子どもと過ごす時間が十分に作れない … 24.2%

（出典：厚生労働省 「第7回 21世紀出生児縦断調査（2010年出生児）」2017年）

きょうのまとめ

「ワンオペ育児」「孤育て」など、子育てにおける“孤立”を防ぐために、どうすればよいのでしょうか？あなたの考えをまとめましょう。

今回は「子育て」について学習しましたが、これまでに学んだ「ライフスタイル」「家庭の機能」「ワーク・ライフ・バランス」などのキーワードとも関連させて考えてみましょう。